

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和2年度第1回相模原市食育推進委員会				
事務局 (担当課)		健康福祉局保健衛生部健康増進課 内線(5624)				
開催日時		令和2年12月10日(木)～12月24日(木)				
開催場所						
出席者	委員	18人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	4人(健康増進課長、総括副主幹、他2人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	
公開不可・一部不可の場合は、その理由		書面会議のため。				
会議次第		1 議題 (1) 会長及び副会長の選出について (2) 令和元年度食育関連事業実施結果について (3) 令和2年度食育関連事業実施計画について				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

(審議を書面で行った理由)

新型コロナウイルス感染症のまん延防止のため、委員が一堂に会する方法により開催することが困難であったため、書面により審議会委員等の意見を求め、回答を得ることにより会議の開催に代えることとした。

1 議題

(1) 会長及び副会長の選出について

会長及び副会長の選出について、事務局より関係資料を送付し、書面による選出を行ったところ、会長は堤ちはる委員、副会長は原田工委員と決定した。

(2) 令和元年度食育関連事業実施結果について

事務局より説明資料及び意見を求める書面協議書の送付を行い、次のとおり意見があった。

(資料3-1 令和元年度食育関連事業実施結果について)

年間事業について、当初事業回数を満たなかった理由は何か。

新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった事業は、当初事業回数を満たなかった。

(資料3-2 令和元年度食育事業評価シートについて)

生活習慣病予防料理講習会について、評価を3段階「知る」「理解する」「実践しようとする」で考えてみると、「わかった」「伝わった」だけではよい習慣化につながるとはいえない。評価基準及び達成度が不明確である。

バランスの良い食事等についての知識がない人に対して、まずは知識を得てもらうことを目的とし、現在の評価基準を定めている。理解や実践の段階にある人に対して、段階に合った事業が紹介できるよう、他の事業について充実させていく。親子食育講座について、子どもの年齢層にもよるが、事業名を「親子料理教室」とする方が適している。必ずしも時代にマッチしているとはいいいがたい事業なので、見直してもよいのではないか。また、食育の講話の機会は別に設けた方がよいと思う。講話をする人の資格はあるのか。

各公民館で実施する際には、「親子食育講座」ではなく「親子で楽しくクッキング教室」という名称で実施している。また、講話の内容を踏まえて調理実習を行うことで、より参加者の学びが深まると考え、現在の形をとっている。講話をする

人は、市主催の養成講座を修了した食生活改善推進団体わかな会の会員である。中学校給食献立募集事業について、中学校給食献立募集事業はとても良い企画だと思ったが、令和2年度になかったのが残念だった。

令和2年度については、4校からの応募（R3.1.25 現在）があり、中学校デリバリー給食としての提供を予定している。なお、提供済みの献立も有る。

講座等を通じた食品ロス削減に係る普及・啓発について、小学生と保護者が対象なら、給食の食べ残しと、食品ロスの問題をとり上げるのも身近な課題だと思う。小学校の授業でSDGsを学んでおり、子どもたちの食品ロスへの関心は高まっている。実際に、生ごみをたい肥化するダンボールコンポストの作成や食品ロスの授業の依頼を小学校から受け、職員等を派遣している。今後は、夏休みのエコクッキング講座だけでなく、職員等の派遣も積極的に行う予定である。

食品ロスに関する活動について、今後も続けて欲しい。

令和元年10月から、フードドライブの常設窓口を開設し、家庭で余っている食品を、市はフードバンクへ提供し、フードバンクから子ども食堂や老人福祉施設へ提供している。今後は、常設窓口の増設を目指したい。また、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった講演会等イベントについても、オンラインを活用するなど、新しい生活様式に合わせた開催を目指したい。

対象者が一般市民の事業について参加者の年齢構成が分かると、若い年代の事業の企画案の参考になるのではないか。

意見があったことについて、関係各課に周知させていただく。

高齢者の栄養失調が問題になっている中、対象の事業が少ないと感じた。

高齢者に対する事業が少ないことは課題に感じている。意見について、各課に周知させていただく。

(3) 令和2年度食育関連事業実施計画について

事務局より説明資料及び意見を求める書面協議書の送付を行い、次のとおり意見があった。

(資料4-2 令和2年度食育事業評価シートについて)

学校歯科巡回指導について、感染症の予防のため実施できないことが残念である。

令和3年度においては、通常の授業と同様、換気の徹底、マスクの着用、一定の距離を保つといった感染症対策を講じた上で、実施予定である。なお、5年生の指導内容については、実際に歯ブラシを持参させていたが、感染防止の観点から、歯ブラシは持参させない形で実施する。

学校給食試食会について、対象が保護者となっているが、小学校と中学校の給食

では方法・形態・内容があまりにもちがうので、保護者を対象とする試食会の他に卒業する6年児童を対象に中学校給食試食会を行い、児童の意見を聞いてみるのはどうか。

6年児童を対象にデリバリー方式の中学校給食の試食会について実施しているところだが、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、残念ながら実施を見合わせている。

中学校の選択制デリバリー給食には「利用率の低さ」「給食時間の短さ」「残食率の高さ」「牛乳選択制」などいくつか課題がある。全員給食ではないので、給食を活用しての食育推進をするには、困難な面があると思う。

中学校給食献立募集事業は全校生徒を対象に、中学校デリバリー給食未登録者からの応募もあり、この取組により給食喫食へと繋がっていくことも考えられる。また、毎月発行している献立表や給食カレンダー及び日々の給食ブログを通して、旬の食材、献立や食材の組み合わせ方、行事食等について学ぶ機会となっているほか、栄養教諭による食育ネットワーク、中学校担当栄養士による派遣授業（食育）など、中学校給食を生かした食育推進に取り組んでいるところである。市立学校栄養職員の特別非常勤制度の活用について、学級担任と栄養職員のT・T方式の食の授業は、食育を推進する上で効果が期待できるものである。数値目標「増加」ではなく、「100%」としていただきたい。

学校栄養職員においては、特別非常勤制度の活用やゲストティーチャーとして、食に関する授業へ参画している。学校栄養職員の専門性を活かし、校内の食育担当者や学級担任等と連携することで、学校における食に関する指導がさらに充実するよう働きかけていく。

新型コロナ感染症によって中止になった活動の代替え、また継続を図るための取組の検討をされているか。

食生活改善推進団体わかな会への委託事業については、公民館での事業が中止となったため、代替として市民へ配布するレシピ集の作成とした。来年度以降については検討中である。

むし歯予防教室については、緊急事態宣言期間中は休止としたが、宣言期間外は検温・消毒の徹底、定員削減や接触・飛沫防止のため一部内容を変更するなど感染予防対策を講じて実施する方針とした。

ふれあい親子サロンについては、親子同士の交流、保健師・保育士・栄養士・歯科衛生士による相談対応、子どもの身体計測など、複合的な要素のあるものであり、専門職による相談や子どもの身体測定などについては、個別で対応できる各区の子育て支援センターの窓口などを重点的に周知しているが、親子同士の交流としての機能については、感染防止対策を徹底したうえでの実施が非常に難しく、関係各課とコロナ禍における事業の在り方等について検討を重ねているところで

ある。

保健センターの事業については、今年度、代替の事業は予定していない。来年度の事業実施に向けて、講義時間の短縮、定員数の削減等を検討している。

食中毒予防キャンペーン、食育フェア等において実施する予定であったリーフレット配布等による食品衛生啓発事業については、代替として、SNS、HP 等のインターネットを活用した啓発活動を行った。

従来の集合型の講習会については、インターネットで講習会の内容を配信した。従来の講習会の内容と同様の構成（食中毒、食品表示等）となっており、終了後に入力された営業所名称や食品衛生責任者氏名、アンケート結果等により受講状況を把握している。なお、インターネットを利用できる環境が整っていない食品等事業者に対しては、DVD を貸し出す対応を行っている。

その他、従来に実施していた各事業を含め、継続的に事業が実施できるよう、引き続き、検討していく。

みんなの消費生活展については、現時点で上記活動の代替案はないが、これまでの関係団体との繋がりを確保し、新たな事業の実施について検討を続けるものとする。

高齢者による共食を目的とするあじさい大学の調理学科については、あじさい大学の見直しを図る中で、今後の対応を検討します。

イベントは、参加したい人、食育に興味がある人、意識がある人が来るのであり、そうではない人をどう巻き込むかが問われてくる。一般市民に向けたチラシの配付（イベント案内ではなく、食の大切さ）などもあっていいのではないかと。

現在、Facebook を通して食に関する内容の発信を行っているが、イベント外でのチラシの配布については今後検討していく。

インターネット等を活用したとり組みは今後必須になってきて、より充実したものが必要になってくると思われる。

オンラインやオンデマンドでのイベント開催等、インターネット等を活用した取り組みについては重要性を感じている。今後拡充していけるよう、検討していく。

以 上

令和2年度 第1回相模原市食育推進委員会名簿

団体名等	氏名	出欠
(一社)相模原市医師会	原 田 工	出
(公社)相模原市歯科医師会	鈴 木 進 一	出
学識経験者(相模女子大学)	堤 ちはる	出
学識経験者(東京家政学院大学)	田 中 弘 之	出
相模原市立小中学校長会	城 上 浩 美	出
(一社)相模原市幼稚園・認定こども園協会	平 本 大 輔	出
相模原市食生活改善推進団体わかな会	湯 田 里 子	出
相模原市栄養士会	鶴 野 由 香	出
相模原市健康づくり普及員連絡会	長 瀬 嘉 子	出
相模原市私立保育園・認定こども園園長会	藤 木 総 宣	出
相模原市農業協同組合	落 合 幸 男	出
神奈川つくい農業協同組合	山 野 和 重	出
相模原市立小中学校 PTA 連絡協議会	村 上 聡 子	欠
相模原食品衛生協会	南 條 耕 司	出
さがみはら消費者の会	石 川 冬 子	出
公募委員	北 島 みどり	出
公募委員	伊 藤 裕 子	出
公募委員	菅 原 妙 子	出